

動画解説まとめ 47 / AI活用

AIアバター動画の制作手順と活用の考え方

あべさんの声と姿を使う専用ツールの実演から、台本・音声・アバター動画を作る流れを整理。教育コンテンツへの活用案と、利用が限定されていた理由もまとめます。

この動画の要点

あべさんと開発者の上田さんが、本人の声と姿で動画を作る専用ツールを紹介した回です。実演では、ChatGPTで用意したAIニュースの台本から音声を生成し、その音声に合わせたアバター動画を作っています。後半では、ナレーションや教育動画への活用、発信者と利用者が協力する考え方を紹介。一方、悪用や意図しない発言を防ぐため、利用者を限定していたことも説明されています。制作の実演と収益化の構想を分けて整理します。

01 実演の流れは、台本を用意する、音声を生成する、音声に合わせたアバター動画を生成するという順番。

02 アバターは説明を届ける役割を担い、何を教えるか、何を紹介するかという内容の準備も必要になる。

03 顔を出せない発信者が、操作の説明や教育コンテンツを作る使い方が提案されている。

04 本人の名前・顔・声を扱うため、動画時点では誰でも自由に使える公開サービスではなかった。

05 ブランドの認知や協力関係への期待と、利用者自身の売上が実証されたことを区別する。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【先行者利益！】AIを使った全く新しいお金の稼ぎ方！"AIあべむつき"でお金を稼ぐ方法初心者向け解説！【AI副業】【ラッキーメイン】

<https://www.youtube.com/watch?v=U-ABfvTSsPg>

何を作れるツールなのか、実演の範囲を押さえる

動画の該当箇所 0:43 / タップして開く

動画の冒頭では、あべさんの声と姿を使ったAI映像が流れます。入力した台本をアバターが読み上げる仕組みで、開発者の上田さんは、あべさん本人がその場にはいない時に文章を入力して作った映像だと説明しています。動画中で紹介されるのは、この専用ツールを使った制作です。

サンプルでは、AI関連のニュースを初心者向けに伝える内容を扱っています。毎回本人がカメラの前で話す作業を、台本と生成音声、アバター映像へ置き換える使い方です。紹介映像ではショート動画やリールでの使用にも触れていますが、本編で実演されるのは音声と映像の生成・再生までです。

同じ動画内でも、紹介用の完成サンプルと、画面上で短い文章を試す実演は分かれています。制作時間については短いサンプルなら数分という説明があるものの、あらゆる長さや内容で同じ時間になるという比較実験は行っていません。収録時の動作例として読みます。

- ・ 入力するもの：アバターに話してもらう台本。
- ・ 生成するもの：台本を読み上げる音声、その音声に合わせた映像。
- ・ 動画で確かめられる範囲：専用ツールでの短い生成と再生の実演。

台本から音声、音声からアバター動画へ進める

動画の該当箇所 1:50 / タップして開く

最初に、上田さんは台本を作るために用意したプロンプトをChatGPTへ貼り付けます。実演では、世の中のAIニュースをまとめ、あべさんが話す形式の台本を作らせています。もともとは5分程度の台本を想定したものだと説明していますが、その場ではサンプルとして冒頭の短い部分を使っています。

次に、できたセリフを専用ツールの入力欄へ移し、音声を作成します。生成後はその音声を再生し、あべさんの声に近い仕上がりになっていることを二人で確かめています。台本を用意しただけで映像まで一度に完了させるのではなく、まず読み上げる音声を作る段階があります。

その音声にアバター動画を付ける操作へ進み、映像の作成が終わってから再生します。完成した映像では、アバターがAIニュースの導入を話しています。この例の制作順は、文章を作る、音声にする、映像にする、再生して見るという流れです。

台本作成用のプロンプト全文や、専用ツールの全設定項目は字幕には含まれていません。この資料では、画面に出た入力欄やボタンの正確な名称を推測して補わず、実演から確認できる順序をまとめています。利用環境が変われば、操作画面や利用条件も別途確認する必要があります。

- ・ ChatGPTでAIニュースの台本を用意し、その一部をサンプルとして使う。
- ・ セリフを専用ツールへ入力して音声を生成し、再生する。
- ・ 音声に対応するアバター映像を生成し、完成した動画を再生する。

発信者と利用者が協力する仕組みとして考える

動画の該当箇所 3:41 / タップして開く

あべさんは、この開発を依頼した理由を、自分の発信力を他の人のビジネスにも使ってもらいたいからだと言明しています。身近な共同生活のメンバーが自分の発信を通じて機会を得ていることを挙げ、その協力関係をより広げたいという考えです。

一方的に誰かを支援するだけではなく、あべさんの露出が増えるほど周囲にも機会が増えるため、周囲からも協力を得られるという関係が語られています。専用アバターは、その関係を身近なメンバー以外へ広げる手段として位置づけられています。

対談では書籍やメディア出演、企業案件についての話も出ますが、それらは本人が築いてきた活動や取引の説明です。アバターの利用者が同じ発信力や案件単価を得た実績を示す数字ではありません。認知されている人物の説明役を使う構想と、利用者の商品が実際に売れるまでの過程は分けて捉えます。

完成した使い方を紹介し合えば双方にとって良い関係になるという話もあります。ここで重要なのは、映像を作れることだけで完結せず、相手にも紹介したくなるような活用内容を考えている点です。どの成果が出るかまでは、撮影時点で実証されたものとして扱われていません。

- ・ 開発の目的：発信者の認知と、利用者の活動を結び付ける。
- ・ 期待する関係：良い活用事例を作り、互いの活動を紹介できるようにする。
- ・ 分けて読むもの：発信者本人の実績と、アバター利用者の将来の成果。

説明役を必要とする場面から用途を選ぶ

動画の該当箇所 6:53 / タップして開く

用途の候補として、アフィリエイト動画の素材や、セールス用のナレーションが挙げられます。後半では、AIを使った業務効率化、資料づくり、恋愛や節約など、AIと別のテーマを組み合わせるアイデアも話されています。これらは対談中の活用案であり、各案の売上を測定した報告ではありません。

特に具体的なのは、顔を伏せてYouTubeを運営している人が、自分のやり方を他の人へ教える場面です。説明を担当する人物や声が必要になった時に、アバターへ操作のコツや自分の制作方法を話してもらい、動画マニュアルにする使い方が提案されています。

この場合、先に用意する内容は、教えた操作や、自分が実際に使っている制作手順です。アバターはその内容を伝える役割を担います。動画の中でも、単に姿を使う話だけでなく、どのような教育コンテンツへ使えばよいかという方向へ議論が進んでいます。

受験勉強などAI以外の学習分野への応用も候補に挙がっています。ただし、アバターの姿があることと、その人物自身がその分野の内容を監修したことは同じではありません。誰が作った説明なのか、どの利用範囲で使えるのかを混同しないことが、この対談の限定公開という条件を理解するうえでも必要です。

- ・ 紹介・販売の説明：商品紹介の動画素材やナレーション。
- ・ 操作の説明：自分の制作手順を伝える動画マニュアル。
- ・ 教育への応用：AIの業務活用や学習コンテンツの説明役。

利用条件と、撮影時点の構想を分けて確認する

動画の該当箇所 7:08 / タップして開く

本人の名前・顔・声で自由に発言を作れることには、不安もあるとあべさんは話しています。悪用や意図しない使われ方を避けるため、当時は限られたメンバーだけに公開していました。動画では人数を限定した案内もありますが、誰でも無条件に利用できるという説明ではありません。

利用を希望する人には、どんなビジネスや発信に使いたいかをメッセージで伝えてほしいと案内しています。これは撮影当時の受付方針です。このPDFを持っていることが、専用ツールへのアクセスや、あべさんの声・姿の使用許可を与えるものではありません。現在の募集有無や利用条件は、本動画だけでは確定できません。

開発者は、寄せられた意見によって追加する機能もあるだろうと話しています。また、自分たちでもAIアバターのチャンネルを運営し、AIの新情報を早く伝える用途にしたいという構想を語っています。編集に時間がかかる通常の動画を補う狙いです。

これらは活用事例や今後の運用を考えている段階の話で、追加機能の実装やチャンネル運営の成果までを報告するものではありません。資料を使う時は、実演された制作の流れ、対談で挙げた用途、当時の限定案内、将来の構想を分けて読みます。

- ・ 本人の意図に沿った使い方にするため、当時は利用者を限定していた。
- ・ 利用目的を具体的に伝える案内と、現在の利用許可・募集状況は別に確認する。
- ・ 新しい機能や別チャンネルの運営は、この回では将来の構想として語られている。

実践の進め方

01 利用できる条件と目的を整理する

動画では利用者を限定し、どんな発信やビジネスに使いたいかを伝える形でした。実際に利用する場合は、現在の利用許可と条件を確認し、説明したい内容を具体化します。

動画 7:16

02 短い台本を用意する

実演ではChatGPTでAIニュースの台本を作り、冒頭の一部を専用ツールへ入力しています。教材なら、自分が教えたい操作や制作手順を先に文章へ整理します。

動画 1:52

03 音声を生成して再生する

入力したセリフから音声を作り、生成された読み上げを再生します。動画でも音声を聞いてから、アバター映像を作る段階へ進んでいます。

動画 2:23

04 音声に合わせて映像を作り、確認する

作成した音声にアバター動画を付け、完成したものを再生します。動画は生成・再生までの実演なので、その後の投稿や販売は利用条件と用途に応じた別の工程として考えます。

動画 2:45

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例。動画内の逐語プロンプトではありません】この資料を参考に、利用許可を得たAIアバターで作る短い解説動画の企画を整理してください。最初に、使用できるアバターと許可の範囲、視聴者、教えたい内容、自分が確かめた手順、使う媒体を質問してください。その回答から、台本を用意する、音声を作る、映像を作る、再生して確認するという順に作業を整理してください。専用ツールの利用権や本人による商品推奨を仮定せず、資料にない機能や現在の募集状況は確認事項として分けてください。追加のアイデアは編集上の提案と明示し、アバターを使えば売上が出ると断定しないでください。

資料について

- ・専用ツールの実演と、活用例・将来の構想を整理した資料です。利用者の収益が検証された事例集ではありません。
- ・動画内の人数限定の案内は撮影当時のものです。本資料の配布は、本人の声や姿を利用する許可を意味しません。
- ・台本作成用プロンプトの全文や、専用ツールの全設定は本資料に含まれていません。
- ・アバターによる説明と本人の監修・推奨を区別する点は、誤解を防ぐための編集上の補足です。